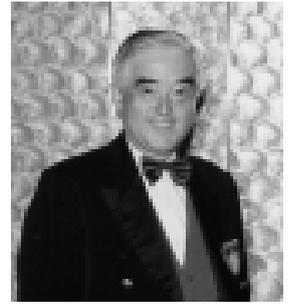


ブルゴーニュ利き酒騎士団のすべて



横山 弘和 / よこやま・ひろかず
1930年兵庫県生まれ。65年ホテル・オークラ(東京)入社。95年に退社するまでソムリエとして30年間一貫してワイン関係業務に従事する。88年11月ブルゴーニュ・シュヴァリエ・デュ・タートヴァン(利き酒騎士)叙任。現在佐多商会ヴィタリテ事業部在籍。

横山 弘和

ここに、La Confrérie des Chevaliers du Tastevin (コンフレリー・デ・シュヴァリエ・デュ・タートヴァン) というたいへん難しい名称があります。このなじみのないフランス語を分析してみましょう。コンフレリーとは主に宗教、慈善関係の団体を意味し、この場合ワインの普及推進団体を指します。シュヴァリエは騎士(英語のナイト)。タートヴァンはワイン試飲用の小さなカップです。ブルゴーニュでは銀製で、光を反射させてワインの色を見るために、カップの底に凹みがつけてあります。従ってこの名称は日本語で正確には「ブルゴーニュ・ワイン利き酒杯の騎士団」ということになるでしょうか。この団体が、ワイン王国フランスの数多いワイン産地に存在する普及団体の中でも、際立って規模が大きく国際的によく知られるブルゴーニュのワイン・ソサエティーなのです。

この団体の歴史は古く、ジョルジュ・フェヴレとカミーユ・ロディエという2人のすぐれた人物の提唱によって、1934年に創立されました。当時、世界はまだ大恐慌の後遺症から立ち直れず、特にヨーロッパは、ナチスやファシストの台頭もあって今にも戦争になりそうな怪しい雲行きでした。当然ワインの売れ行きは極端に悪く、加えて皮肉にも1934年のぶどうの収穫量が非常に多かったため、ブルゴーニュの酒蔵は在庫でいっぱいになってしまいました。そのような状態のなかジョルジュとカミーユの2人は相談して、誰も我々のワインを欲しがらないなら、いっそ友達を呼んで一緒に飲んでしまおうということになりました。これは破れかぶれの心境から生まれた団体だったのです。こうして同年11月16日土曜日、ニュー・サン・ジョルジュの酒蔵カヴオー・ニュイトンで記念すべき第一回の集會がもたれます。そのとき以来、この団体はブルゴーニュ地方のワインだけでなく、古い歴史、すぐれた文化、美味しい郷土料理、そして何よりも陽気で人情味豊かなフォークロアの紹介に力を注いできたのです。その後、集會は由緒あるシャトー・ド・ヴージュで行われるようになりました。これは、12世紀初頭、シトー会の修道士がヴージュ村に修道院や教会を建てその周囲にぶどう畑を作った際、発酵室、貯蔵庫として建てられたもので、16世紀の改築を経て現在に至る

フランスの国家的重要建造物です。第2次世界大戦も終わりに近づいた1944年11月29日には、彼らはこの建物を買い取って正式に本部として所有することになりました。

今日、コンフレリー・デ・シュヴァリエ・デュ・タートヴァンは世界中に約11,000名の会員をもち、フランス人約50%、次いでアメリカ人約20%、日本人を含むその他が30%というメンバー構成です。会員の職業、経歴は多種多彩で、国家元首、政治家、外交官、軍人、宇宙飛行士、企業家、芸術家、音楽家、俳優、医師から、ワイン取引業者、料理人、ソムリエに至るまで、それぞれの分野で活躍するブルゴーニュ・ワイン愛好家の男女が顔を揃えます。会員2名の推薦と書類審査によって会員になることができます。新会員はクロ・ド・ヴージュで毎年十数回開かれる例会のいずれかにも出席して叙任を受けます。会員の証として与えられるのは、深紅の地に金色の線が入った美しいリボンのついたタートヴァンです。リボンの深紅は赤ワインを、金色は白ワインを象徴しています。4種類のリボンは意匠が異なり、GRAND-OFFICIER、OFFICIER-COMMANDEUR、COMMANDEUR、CHEVALIERという4つの位を表しています。

クロ・ド・ヴージュでは年間16回から18回の集會及び大晩餐會が開催されます。1998年の今年は16回で、下のような日程になっています。

それぞれの集會につけられた名前は季節感を感じさせ、いかにも楽しそうです。これらの会

のうち、1月のサン・ヴァンサン(ぶどう栽培者の守護聖人)の会と、11月の栄光の3日間は、特別な年中行事として最高の盛り上がりを見せます。

さて、日本のシュヴァリエ・デュ・タートヴァンの活動はどうか。テレビで活躍された兼高おるさんは、ごく初期に叙任されています。また、歴代のフランス駐在日本大使も叙任されてきました。1970年後半から80年代、日本のワイン消費の急激な伸びに伴いブルゴーニュ地方との交流が広がり、大手の洋酒関連会社の経営者や幹部が叙任され、さらにレストラン経営者やワイン・ジャーナリストの叙任も増えました。90年代になると、医師や音楽家、写真家など芸術分野で活躍される方々がこれに加わり、ブルゴーニュを愛する人々の輪がますます広がっていきます。そんななか1995年1月28日、



デザイナーの森英恵さん。歌手のシルヴィー・ヴァルタンさんも1998年5月に叙任。(撮影:飯山翔)

Chevaliers du Tastevin 1998年集會日程		
1月24日(土)	SAINT-VINCENT TOURNANTE à RULLY	サン・ヴァンサンの会
4月4日(土)	CHAPITRE DU RENOUVEAU	春の訪れの会
4月18日(土)	CHAPITRE DES TULIPES	チューリップの会
4月24日(金)	CHAPITRE DE PRINTEMPS	春の会
5月9日(土)	CHAPITRE DES PREMIÈRES	初穂の会
5月16日(土)	CHAPITRE DES ROSES	バラの会
6月6日(土)	CHAPITRE DE LA VIGNE EN FLEUR	花をつけたブドウの会
6月13日(土)	CHAPITRE D'ÉTÉ	夏の会
9月26日(土)	CHAPITRE DE L'EQUINOXE	秋分の会
10月3日(土)	CHAPITRE DES VENDANGES	収穫の会
10月17日(土)	CHAPITRE D'AUTOMNE	秋の会
10月24日(土)	CHAPITRE DES SARMENTS	若枝の会
11月7日(土)	CHAPITRE DE LA GASTRONOMIE	美食の会
11月14日(土)	CHAPITRE DES TROIS GLORIEUSES	栄光の3日間の会
11月28日(土)	CHAPITRE DU PRIX DU TASTEVIN	タートヴァン賞の会
12月12日(土)	CHAPITRE DE LA SAINT-HUBERT	サン・テューベルの会



1995年度シュヴァリエ・デュ・タートヴァン・ジャポン総会

待望の日本支部が誕生し、発会式と第1回の集会在明治記念館で開催されました。現在約80名の会員を擁する日本支部は、毎年7月に総会、12月に「ブルゴーニュのクリスマスを楽しむ会」を開催し、会員とそのゲストの参加でにぎわいを呈し毎回好評を得ています。これらの会には、フランス本部からやってくる幹事長や長老に加え、カデ・ド・ブルゴーニュ(ブルゴーニュ合唱団)のメンバー数人が出席し、美しいワイン賛歌の数々を見事なハーモニーとユーモアあふれる快活さで歌い上げ、観衆を魅了してくれます。尚、本年からこれら2回の会に加え、カジュアルで気取らない立食形式の集会をもつことになりました。この会では会費とは別に、お気に入りのブルゴーニュ・ワインを1本持って参加することが義務づけられています。ちょうど栄光の3日間の月曜日にシャトー・ド・ムルソーで開かれる午餐会(ラ・ポーレ)のように、お互いにワインを勧め合っ合って楽しもうというのが狙いです。

Tastevinageタストゥヴィナージ 騎士団認定のワイン

シュヴァリエ・デュ・タートヴァンの重要な定期的活動の中に、優秀なブルゴーニュ・ワインの認定という仕事があります。ワインの生産者及び仲買兼熟成業者*から提出されたワインのサンプルを試飲して、規定以上の品質と認めたワインに騎士団お墨付きともいえる特別のラベルを与えます。こういう形でブルゴーニュ・ワインの品質向上を後援しているのです。

この試飲会は年2回行われ、春には赤ワイン、秋には白ワイン、スパークリング・ワイン、ポジ



ヨレーが審査されます。審査員は、政府の公正取引関係の役人から醸造学者、レストラン経営者、ワイン・テースティングに造詣の深いアマチュアなど、主に外部の人々250人が務めます。公平に審査され合格したワインには、認定年、認定番号、認定スタンプの付いた特別のラベルが貼られます。量は多くありませんが、日本にも輸入されているのでどうぞお試しください。

シュヴァリエ・デュ・タートヴァンの宴会では、ステージの上に必ず、

JAMÀIS EN VAIN
(決して・ない) (むなしく・むだに)
TOUJOURS EN VIN
(いつも) (ワインと共に)

と書かれたワインカラーの垂れ幕が飾られます。ワインさえあれば決してむなしいことはない—これがこの会のモットーです。

* ワイン仲買兼熟成業者 ネゴシヤン エルヴール négociants-éleveurs : ブルゴーニュ・ワインを知る上で、このネゴシヤン・エルヴールの存在を理解することが一つのキーになります。

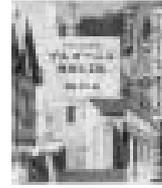
ブルゴーニュ・ワインの今日に至る長い歴史の中で、フランス革命の影響で始まった大きな変化があります。この革命により、教会と貴族階級の広大な土地が、没収され、「国有財産」として競売にかけられ、細かく分割されたのです。加えて、畑は長男だけでなくすべての子供が継承権をもつとするフランス相続法によって、畑の細分化に拍車がかかりました。こんな理由から一人の生産者のもつ畑の面積はきわめて小さく、収穫した新酒を1年半から2年も樽貯蔵して自家瓶詰めをするには、量が少なすぎて効率が悪く、資金繰りも難しくなります。そこでブルゴーニュ地方では、18世紀の前半から、ワインの熟成、販売、輸出を一手に引き受ける職業が生まれ繁栄してきました。フランスの他のワイン産地に比べ複雑なワイン取り引きに、この地の伝統あるネゴシヤン・エルヴールの存在は欠かせません。

★

シュヴァリエ・デュ・タートヴァン・ジャポン理事会
名誉会長 内田宏(元駐仏大使)
会長 伊藤恒(元ホテルニッコーU.S.A.社長/現トラベルジャーナル旅行専門学校校長)
専務理事 佐多保彦((株)東機質社長)
理事 山本博(弁護士)
中上スミ子((有)スイスシャレー社長)
小阪田嘉昭(メルシヤン(株)ワイン技術部長)
藤本義一(元サントリー宣伝部/ワイン相談室長)
(敬称略・順不同)

シュヴァリエ・デュ・タートヴァンにご興味のある方は、下記事務局までご連絡ください。(担当:岩沢)
〒106-8655 港区東麻布2-3-4
Tel 03-3582-5087
Fax 03-3586-5042

出版のご案内



フランスの中心
ブルゴーニュ
歴史と文化

饗庭孝男 編

ヨーロッパの十字路「ブルゴーニュ」の魅力

ワインの国の歴史と宗教、文化、産業、経済、そして食と祝祭etc. 現地からの特別寄稿と6人のフランス文学者による初の本格的なブルゴーニュの案内書です。

小沢書店刊 定価(本体3200円+税)
全国の有名書店でお買い求めください。



Château de Chailly / シャトー・ドゥ・シャイイ

ブルゴーニュへ、ようこそ

中世がいまだに息づいているブルゴーニュへいらっしゃいませんか。数々の銘酒を生み出すぶどう畑、グルメレストランの数々、中世そのままの街なみ、美しく広がる大地や、小さな村々、豊かな生命力と「はだのぬくもりを感じる地方、それがブルゴーニュです。



お問い合わせ
(株)佐多商会ヴィタリテ事業部 担当:岩沢
Tel. 03 3582 5087